

読み書きのアセスメント

東京大学先端科学技術研究センター

人間支援工学分野

近藤武夫

読み書きのアセスメントの必要性

- 「読み書き障害＝全く読み書きができない」ではなく、「読み書きを正確かつ流ちょうに行うことができない」状態のことです。知的な障害とは異なるため、文章の意味を理解できないわけではありません。
- 「文字を見て認識することは難しいが、音を聞いて意味を理解することはできる」、「文字を拡大したり、行間を広げたりといった調整で意味の理解が助けられる」という児童生徒も少なくありません。
- では、どのようにしてそうした読み書き困難を見つけ出すか？学校でよく行われるWISC(知能検査)では、読み書きの能力を測ることができません。そこで、適切な読み書きのアセスメントを行う必要があります。
- アセスメントは、音声教材支援を、ためらいなく行う・認めることができる根拠にもなります。この講義では、教室で有資格者でなくても簡単に実施することができるアセスメントのいくつかを紹介します。

読み書きの困難

- 読むことが遅いと？
 - 理解が不十分なままに教科書の学習が進んでいく可能性
 - テストの問題文を読むことに時間がかかり、理解できていても解答できていない可能性
- 書くことが遅いと？
 - 黒板をノートに全部写す前に消されてしまったり、書くことに極端な苦痛を感じていることも
 - 試験の途中で時間切れになってしまうことも
- その結果として？
 - 理解できており、書きたいことはあるが、表現ができない、評価されない状態に
 - 学習が遅れたり、意欲をなくしてしまっている可能性
- 読み書きの速度や正確性を確認する
 - 学年ごとの平均値と比べることで、個々の児童生徒の読み書き困難の状態を客観的に把握しましょう。
 - 極端に読み書きの困難がある場合、「自分の目で文章を読む」、「鉛筆を使って文字を書く」以外の別の方法を使うことを考慮しましょう。

1. STRAW(ストロウ)

小学生の読み書きスクリーニング検査

<http://www.saccess55.co.jp/kobetu/detail/straw.html>



【検査内容】

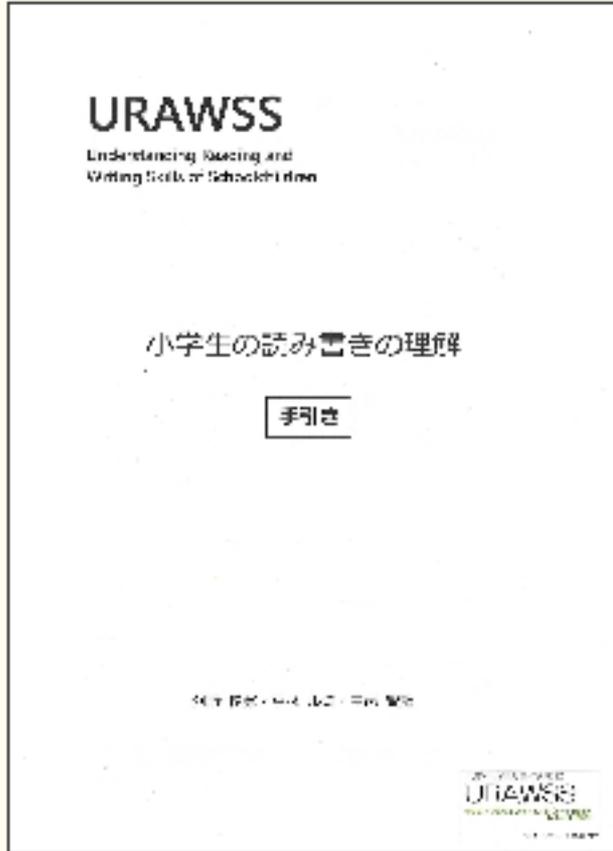
文字の読み書きの正確性を調べる検査です。
正確性を学年平均と比べることができます。

【課題実施内容】

1文字または単語を書き取る課題があります。
1文字は、ひらがな、カタカナを、単語はひらがな、カタカナ、漢字を読み書きします(各20問)。

2. URAWSS (ウラウス)

Understanding Reading and Writing Skills of Schoolchildren



【評価内容】

読み書きの速度を評価することができます。
速度を学年平均と比べることができます。

【課題実施内容】

「書き課題」と「読み課題」があります。書き課題は、文章を3分間視写し、1分間あたりの書き速度を算出します。

読み課題は、文章を一定時間黙読し、次のページに書かれている内容理解を問う問題に○×で解答します。

その後、1分間あたりの読み速度を算出し、また内容理解の正答数を出します。

発展：URAWSSをICT利用の効果 判断に活用

書き課題：手書き → 「ワープロ」で行うと？

読み課題：自力読み → 「代読」で行うと？

※読み書きの方法が変わると遂行成績がどう変わるかを確認し、ICTによる代替の効果を測る

3. 標準読書力診断テスト

【評価内容】

文章理解の「正確性」を評価することができます。理解度を学年平均と比べることができます。(ただし、この検査のみすでに絶版ですので、利用に関心のある方は東大先端研人間支援工学分野までお問い合わせください)

【課題実施内容】

短文を読み、その意味内容に合う正しい絵に○や×をつけたり、絵を線で結んだりする課題です。東大先端研では、このテスト中の、同じ形式と難易度の2つのテスト(内容が少し異なる)を、普段通り自分で解く条件と、検査者が横で読み上げた音声を聞いて解く条件とに分けて、正答数と時間を比較し、読み上げの補助が有効かどうかを検討しています。

4. その他のアセスメント

以下は有資格者(心理士など)による実施が必要となることが多いアセスメントですが、参考となる情報を示しておきます。

1. K-ABC II

- 認知尺度と習得尺度の2つの尺度からなる検査。認知面での障害や得意な部分の状況と、学力の習得の状況の両方の側面を、同時に調べて比較することができます。小学生から高校生程度までを対象にすることができます。

2. 多層指導モデルMIM

- 読みのアセスメント(読むことのどのような部分につまづきがあるか)と読みの指導をパッケージにしたものです。初期の読みのアセスメントと指導を対象にしているものです。

3. 特異的発達障害診断・治療のための実践ガイドライン

- 読み書きの困難に関するチェックリストがあり、児童生徒の読み書きのどのようなポイントに着目すべきかが示されています。